

## 【水圧発電の開発について】

2023年7月 世界中で熱波・山火事・氷河の融解・洪水・・・等、異常気象による災害が多発し、グレーデス国連事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球が沸騰する時代が到来した」と警告を發しました。地震大国日本では、首都直下型地震、南海トラフト地震の近未来予測があるにもかかわらず、原子力発電の再稼働・拡大の方向が示されました。エネルギー資源存在に起因する戦争も発生しています。脱炭素・脱原発が可能な自然エネルギーが必要です。

**太陽光や風力のように自然影響を受ける発電ではなく、天候や場所に影響されないで、メカニツクのみで量産可能な自然エネルギーの登場が必要です。**

弊社は、パスカルの原理が油圧・水圧・・・等の機械に活用されているのと同様に、圧力を活用しての発電を研究してきました。

発明者は、ダムの位置エネルギー、**水頭圧等の圧力エネルギー**を人工的圧力に代替可能なことに着目し、**ダムの電力（集中）を都会（分散）**できないかと研究してきました。20数年の継続研究を経て特許3件取得し、装置名を「**分散型水圧自家発電機**」（大型冷蔵庫の大きさ）で**水圧発電という方式**にしました。

この新しいエネルギーの活用による発電は、**S+3Eに適合し、主力電源化が可能な分散型発電です。メカニツクのみで、ダムの電力（集中）を都会（分散）で実現を可能にする**ものです。太陽光（メガソーラ）や風力発電の、環境破壊が指摘されていますが、このような環境破壊をしない、理想の自然エネルギーです。**技術革新で世界が一番欲しいものは、自然エネルギーで天候や場所に左右されず安価で環境破壊の無い、量産可能な発電装置ではないでしょうか。実現すれば、エネルギーの安全保障と安定供給、経済と環境の両立が可能**となります。**エネルギーの存在で発生する戦争はなくなり、平和な世界も期待**できます。

エネルギーの**需要の電化**、AIの進展、DX（2050年 現在の数十倍の電力が必要）が進展すれば、ますますエネルギーの要求が増していきます。省エネだけではグリーン電力需要を満たすのは困難です。

自動車のEV化の流れの中で、この発電装置（大型冷蔵庫）をトラックやバスに搭載すれば、**自己充電式EV**となります。走行時以外は、V2Xとして発電した電力を活用することも可能になります。**自動車は、CO2排出のマイナスではなく、自然エネルギーを発電する小型発電機となります。**

電動船や電動航空機の話も目にします、これらも研究し搭載可能にすれば**蓄電池や航続距離の問題も解決**します。この発電装置は、モビリティやスマートシティ等にも関係してきます。又、**分散型発電なので地産地消でグリーン水素も生成可能**です。**送電線拡充も最低限ですみます。**

現在、弊社の分散型水力自家発電機は、実証機製作が資金不足で中断している状況で、特許以外の資産は全てを喪失している状況です。

革新的エネルギーは、協業を求めても困難なのが現実です。実証機製作ができていませんが、**重力利用と考えたときの大きな課題は、特許3件でクリアし、あとは既存の最新技術で可能と考えています。**

**新しい、人工的圧力という自然エネルギー活用の扉を拓き、油圧機械のように、発電も天候や場所に左右されないで、メカニツクのみで量産が可能となります。**

ワツトの蒸気機関は、ピストンの上下運動を回転運動に変える仕組みを発明し、その発明が産業革命の原動力となりました。弊社の発明も、それに類する**新しい自然エネルギー活用の扉を拓くもの**と考えます。

**未来エネルギー**と言われる、宇宙太陽光発電、核融合発電、メタンハイドレード等・・・等、どれだけの費用を投じて、何時できるのでしょうか？、環境破壊は無いのでしょうか。又、それを活用するには、**インフラ拡充が必要です**。それと比較すれば、「**分散型水圧自家発電機**」は、**S+3Eに適合し、地産地消の分散型発電です。環境破壊も無い、量産可能で主力電源化や調整電源としても便利な理想の分散発電です。動力系への活用も可能です。**

**2023年8月 現在、さらに考え方が進化しています。実証機製作を中断していますが、さらなる新方式が見えてきました。課題と考えられる、増圧・摩擦・シール（圧力漏れ）・・・等のさらなる考えが進み、より容易にメカニツクみでの自然エネルギー発電装置が可能と考えています。サイズも大型化・小型化が容易になります。Gは遊園地でも活用されており、既存の特許を基にした新・方式も見えてきている状況です。**

気象災害ニュースのヤフコメを見ると、多くのコメントが、もう温暖化に対して既に遅きな達していると諦めのコメントが増加しています。

しかし、これからの行動で**気候災害を大難を小難に**、なるべく軽減させることはできるのではないのでしょうか。**新・自然エネルギー（水圧発電）を実現**していくことがエネルギー問題・気候変動対策としての大きな手段ではないのでしょうか。

エネルギー問題は、今や**地球規模の課題**です。弊社の発明により、**重力利用の閉ざされた扉は拓かれた**と思います。**重力の活用について**、従来の拒否姿勢ではなく、宇宙太陽光や核融合発電・・・等と同じように**未来エネルギーの可能性の一つとしての認識**されないかと考えます。

**弊社の研究を基にして、各研究機関や大学そして企業が、水圧発電に挑戦し、可能性を追求し。脱原子力・脱炭素社会・エネルギー争奪の無い平和な社会を実現できないでしょうか。**

各企業（機械関係）も、**未来社会の理想の自然エネルギーを実現すべく、自社の研究領域**として取り組んでいけたらと思えてなりません。（核融合や宇宙太陽光・・・等 相違し、各企業で研究可能です。）

**新しい、人工的圧力という自然エネルギー活用の扉を拓き、油圧機械のように、発電も天候や場所に左右されないで可能にし、自然エネルギーの安価電力の提供し、GX産業革命を起せないかと考えます。**

**脱原発と脱炭素を両立し、エネルギー安全保障と安定供給を実現し、経済と環境を両立させ、世界の2050年カーボンニュートラルを実現させ、未来の子供達に持続可能な地球環境を残していきたいと思えてなりません。**

## 発明者（田中）の「分散型水力自家発電機」 研究所感

この『万有重力エネルギー』の代表的な位置エネルギー、とりわけ水頭圧等の圧力エネルギーは、**何処にでも存在**し、ダム水力発電のように稼働もしています。しかし、目に見えなく肌で感じるこのできない、このポテンシャルエネルギーの『**動力化研究**』は、通常、ご法度的な科学分野にあり、教科書が基本で殆んど研究機関は在りません。

この新・再エネ電源は、万有エネルギー（圧力）活用デバイスで、この研究は、30年前は、『できもしないことを言う』と人に馬鹿にされ、殆んど無視されたエネルギーでした。また、この研究を完結するまでに到着するには、種々のハードルは高く、技術的なことでは、絶えず壁が立ちばかり、何度も繰り返された課題対策用・実証実験129回と、失敗原因ごとに、スタート台に戻り、発想から設計・製作・テストの繰り返しは、日常茶飯事に討議され、一つずつ故障モジュールの解析を繰り返し、失敗原因を塗りつぶす繰り返しは、永遠に感じる長い道のりでした。『何時か、塗りつぶしが無くなった時が成功だ！』を合言葉に繰り返すも、決定的思考には至らず、迷走する思考は、『また失敗するのでは？』の危機感ばかりが台頭し、各大学で教を乞う日々に、絶えず行われた背水の陣的思考も、煩惱のみがはびこり、空回りの連続期が絶え間なく襲い、『貧すれば鈍す』の長いトンネルは、言葉に表せない惨めな辛い日々でした。また、『恥かき、義理欠き、人情欠き』の乞食にも似た研究生活は、人間の尊厳などなく、焦りは積り増し、苦難のどん底を見て味わった経験は、人間を大きく強くもしました。

資金がかかる研究には、ある程度の資金的ユトリを必要としました。また、『窮鼠猫を噛む』の諺とおり、私は、このどん底の苦悩にしか存在しない諦めの中の『ひらめき』にも遭遇し、運がいいというか、このどん底の発想（**2軸回転ローター駆動装置**）が功を奏し、**懸案課題の『返すエネルギー負荷を瞬間に消滅させ、受けたエネルギーを持続/継続機能させるデバイス』の誕生を得ました。**直ちに部分実証実験で確信した時は、26年の歳月が経過していました。

又、このポテンシャルエネルギーの実用化は、最近こそ各界から注目・期待され、理解者も増え、喫緊の完成を期待され乍らも、『いざ実用化の制作』への資金調達には、M&Aを含め、難義に難義を重ね、理解を得られない空回りの連続で、特許取得後はアツという間の3年半が経過しました。それでも、『早く造りたい』焦りは、手段選ばずの支援先チャレンジにも、ことごとく不発に終始しました。メンバーの年金を出し合い部分的なデバイスの試作機を製作しておりますが、完成に何年かかるかわかりません。製作費の試算を繰り返し、簡素にシンプルに、省ける部材は節約しても限度があり、最低限の資金での、まがい物はできなく、生活に事欠く日々に、頼みの綱はVC支援へ再度チャレンジするも、日本のVCは、試作機完了後での『製品化の資金』以外は対象外で、『これから制作する』の開発中は駄目と、ケンもモホロロで、事ごとく不発でテーブルに付けない資金繰りを繰り返してきました。また、支援申請書の技術内容等については、『**エネルギー保存則**』を建前に、『ありえない』と、表面ズラの結論で、技術内容について、**精査もいた**だけない素人判断の断りは、今でも残念でなりません。

これが教科書の基本であったり、常識だったりする人々が大半で、重力概念を卓越した人も少ない世界で、説得するには至らない分野は、歯車が噛み合わない筈です。

結果、人類救済の再エネメカニクスは、外に太陽光・風力以外に存在しなく、本発電は、誰にも真似できないデバイスであり、自信と信念を持続しなければ、誰が成せるのか？と、思いも新たにし、気を取り直して研究完結を信じ、没頭しています。

私は、この重力エネルギーの実用化には不可欠な部分特許を取得できたことは、エジソンのいう『99%の努力と1%の運』に身を以て体験させて頂いた感は、否めなく、誇りに思っております。が、これが実用化され世のためになってから初めて言えることで、新たな研究課題が生じることも否めません。が、潤沢な資金があれば、完結します。

この発電デバイスの発見・発明に、本日迄、**30年余間の歳月と、膨大な研究開発費を費やしました。**年々エスカレートする温暖化がもたらす災害を何とかしなければ、の思いは、人に馬鹿にされながらも、誰かが遣らなければ、『孫をはじめ、次世代に未来はない』、との危機感はずのり、やりとうす決心・決意は目的達成を後押しし、老いても尚、TA (technology assessment)・TI (technology innovation)を基本に深く就学を重ね、『**万有エネルギー動力化**』を理論確立させ、**個別の3特許を取得することができました。**

この基本3特許機能を組み合わせた、再エネ『分散型水圧自家発電機』の主張は、ともすると、『**あり得ない**』、**永久機関？・エネルギー保存則は？ 入力>出力は？と、力学的法理法則**を盾に、断りの塗りつぶしから審理され、絶えず否定的に結論付けられ、また、『**特許とは、世界中の類似検索をしてから審査に入り、拒絶することから始まり拒絶理由がなくなった場合にのみ与えられます**』から、**難疑を強いられました。**

特に、**動力部門は、拒絶/拒絶のスタンスで疑って審査**され、『ありえない』・『ありえない』の拒絶理由は、丁寧で且つ、十分な説明を求められました。従って取得3特許の個々のデバイスは理論完璧に仕上がり、自信作に為ったと自負しており、ここまでの完成度は個別・特許取得で99%と思いますが、この各々の特許機能を生かした、一体型の『分散型水圧自家発電』デバイスを出現させるには、実証機を作り証明することで、組み合わせデバイスに成すまでの1%のリスクは製作技術にかかっています。信頼できる大手技術企業に依頼する交渉も、超零細な弊社を扱って戴けるか？もう一枚看板も必要と思案しますが、問題は弊社の財務内容（信用）に掛かってきます。が、30余年に及ぶ研究開発費は、弊社の体力も限界を超えていて、自力での製作は前述のとおり断念するに至っております。**是非、世の為・人の為にこの研究を実現させたいと存じます。**

株式会社WGE 田中昭次